

RPC-2NCPoEファームウェアバージョンアップ

4.30Dでの新機能ご紹介 ならびに 注意書き

明京電機株式会社

1.0版(2025/12作成)

弊社REBOOTERシリーズ[RPC-2NCPoE]を平素ご利用いただき、誠にありがとうございます。
ファームウェアを「4.30D」にバージョンアップ後、使用できる機能をご紹介します。

注意：書換後、ダウングレードを行うことはできません。

《大きな追加機能》

- ・PoE制御モードにAPRESIA SNMP制御モードが追加となりました。
これにより、APRESIA Systems社のGSシリーズにつきまして、SNMPによるPoE給電ポート制御が可能となります。
- ・Ping監視の動作に「ON追従」「OFF追従」が追加されました。
- ・ポート監視の動作に「ON」「OFF」が追加されました。
- ・送信メール 本文1行目も選択可能になりました。
※4.20Bからのバージョンアップ後には「初期化」またはメールの項目を再設定していただく必要があります。
- ・MODEボタンを長押しすることで、設定したアウトレット制御コマンドが実行できるようになりました。
上記の追加された機能についての詳しい内容は詳細取説をご覧ください。
- ・ユーティリティソフトウェア MRC-Settingから、スクリプトの流し込みが可能になりました。

《主な変更点》

- ・NTPサーバー同期間隔を3580(×10分)以上に設定すると、数秒おきにNTPサーバーへの接続が行われる不具合に対応しました。
- ・特定の環境下で現象として表出するTCP通信の不具合に対応しました。
WEBアクセス時、特定の条件下で意図せぬログアウトが発生しないようにしました。
- ・有効でないSMTP認証方式設定後にメール送信処理を実行して失敗した後、送信リトライ処理を行わなくなる不具合に対応しました。

- ・SSHサーバー機能において排他制御が効いていない不具合に対応しました。
- ・PING監視にて、Ping送信間隔(秒)について、Ping監視 無応答検出時間(秒)の設定値によって最小値が変動するように修正しました。
4.20BではPing送信間隔の設定値が小さすぎたときに、無応答がカウントされず監視動作が発動しない場合があります。
Ping送信間隔(秒)を23秒～31秒に設定したい場合は詳細取説をご覧ください。
- ・HB監視においてポート変更などの設定変更を行った後、CPUリセットが必要であるにも関わらず、画面上にその注意表示が出てこない不具合に対応しました。
- ・本機に主電源を投入した際に、ごく稀に通信ができない場合がある不具合に対応しました。
(4.30D以降のファームウェアでは、本装置電源投入時、PILOT LEDが3秒点灯→0.25秒消灯→その後、(本体に電源投入されている限り)常に点灯、となります。)
- ・機器起動時(リンク確立時)のタイミングにより、送信パケットの一部が送信されない場合がある不具合に対応しました。

《変数の差異》

- 先述の機能追加により、以下の変数がListに追加されています。

mailSendClock=""

通知メールに記載される日時又は積算時間(ReadOnly)

manuSwCommand

手動スイッチに設定する電源制御コマンド(デフォルト: PSR1,PSR2)

manuSwComInterval

コマンド間実行間隔(秒) (デフォルト: 1)

manuSwComFinis

コマンド終了時間(秒) (デフォルト: 5)

【APRESIA SNMP 制御モード関連】

poeSnmpAddress

PoE 対応スイッチの IP アドレス

poeSnmpPort

PoE 対応スイッチの SNMP 制御用ポートアドレス(デフォルト:161,161,161,161)

poeSnmpCommunity

SNMP 制御用コミュニティ名(デフォルト:private)

poeSnmpControlOidS

給電制御用 OID(デフォルト:1.3.6.1.4.1.278.108.1.27.2.1.1.3.0)

poeSnmpStatusOidS

給電ステータス参照用 OID(デフォルト:1.3.6.1.4.1.278.108.1.27.2.1.1.10.0)

poeSnmpControlOidName

給電制御用 OID 名称(デフォルト:poePortAdminState)

poeSnmpStatusOidName

給電ステータス参照用 OID 名称(デフォルト:poePortStatus)

poeSnmpPSEOnValue

給電 ON 用設定値(デフォルト:1)

poeSnmpPSEOffValue

給電 OFF 用設定値(デフォルト:2)

《バージョンアップの方法》

[システム設定]の[詳細設定]をクリックします。詳細設定画面が表示されます。

レジストリ リスト	
レジストリ リスト	Text リスト
機器制御	
ファームウェア管理	ファームウェア更新
ファームウェア書き換え設定	有効 ▼
Wake on LAN	
WoL 送出数	2

[ファームウェア更新]をクリックすると、以下のメニューが開きます。

ファームウェアバージョンアップ	
現在のファーム情報	
バージョン	4.20B.231117
モデル名	RPC-2NCPoE
バージョンアップ方法の選択	
オンラインアップデート	開始
ローカルファイルの選択	ファイル選択

オンラインアップデートを行う場合：[開始]をクリックすると、弊社サーバーに接続してアップグレードします。

ローカルアップデートを行う場合：[ファイル選択]をクリックし、PCに保存したアップグレード用のファイルを選択してアップグレードします。

《バージョンアップ後のご注意》

電源管理クラウド365からのファームウェアアップデートを行う場合は、事前に、リブーターの設定で[システム設定]-[詳細設定]-「機器制御」の「ファームウェア書き換え設定」を[有効]または[オンラインのみ]に設定してください。(リブーターのデフォルト値は[有効]です。)

機器制御	
ファームウェア管理	ファームウェア更新
ファームウェア書き換え設定	有効 ▼ 無効 ファイルのみ オンラインのみ 有効
Wake on LAN	
WoL 送出数	2

電源管理クラウド365からのオンラインバージョンアップ

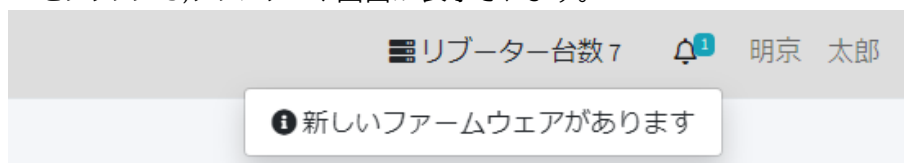
ファームウェアアップデートを電源管理クラウド365から行うことができます。

注意 正常にファームウェアアップデートが完了すると、自動でリブーターのCPUリセットが行われます。
CPUリセットに伴いアウトレットの状態は変化いたしません、イベントログが消去されます。リブーターのログが必要な場合は事前に保存してください。

アップデートが可能になると、ダッシュボードに通知が表示されます。
通知は管理者権限ユーザーのログイン時のみ表示されます。



通知マークをクリックでメッセージが表示されます。
メッセージをクリックで、アップデート画面が表示されます。



アクティベートされたリブーターが一覧で表示されます。
アップデート可能なリブーターは赤背景で表示されます。
ファームウェアアップデート未対応のリブーターはステータスに「未対応リブーター」と表示されます。
未対応リブーターはリブーターのWEB画面からアップデートを行う必要があります。



アップデートを行うリブーターの行をクリックして、アクティベートするリブーターを選択します。
[未アップデートを全選択]をクリックでアップデート可能なリブーターをすべて選択することができます。

リブーターファームウェア管理

⊕ 戻る

リブーターファームウェア管理

SSHサーバー機能対応機種に関しては、SSHでのコネクションが切れている状態でバージョンアップを実行してください。

行クリックで選択／選択解除 ☒ 未アップデートを全選択 ☐ 全解除

デバイス名称	機器	現在のファームウェア	最新のファームウェア	ステータス
リブーター-0005 RPC-M4LS	WATCH BOOT L-zero RPC-M4LS	4.10A.230628	4.10A.230629	
リブーター-0009 RPC-M2CS	WATCH BOOT nino RPC-M2CS	4.10A.230628	4.10A.230629	
リブーター-0010 RPC-M5CS	WATCH BOOT light RPC-M5CS	4.00A.230123	4.10A.230629	未対応リブーター

3件中 1～3件を表示

前 1 次

アップデート実行

⊕ 戻る

[アップデート実行]をクリックで確認のメッセージが表示されますので、[はい]をクリックします。

選択されたリブーターのファームウェアを更新
します。よろしいですか？

はい

いいえ

ファームウェアのアップデートが実行されます。実行中のリブーターは背景が灰色となり、ステータスが「リブーター待機中」または「アップデート中」となります。
背景が灰色の間は、リブーターの操作を行うことはできません。

リブーターのアップデートが完了すると、ステータスに「アップデート完了」と表示されます。

以上